

迅速な救急搬送受け入れに 院内の救急救命士が活躍

一般財団法人自警会東京警察病院は、救急センターに救急救命士を3人配置。最適なトリアージで救急搬送受け入れを担うほか、医師業務や看護業務もサポート。「救急を断らない病院」として、効率的な救急医療体制を実現している。

救急センターでの実際の診療風景

院内救急救命士の配置で 医師・看護師の業務効率化

一般病棟415床を有し、東京都中野区の2次救急を支えている一般財団法人自警会東京警察病院。同院の救急外来を担当している救急センターでは、ER型の救急体制をとっており、救急科専門医があらゆる救急患者に対して初期診療を行っている。

従来は救急科専門医が診察も電話対応も行っていたが、診察中に電話がかかってきた場合、手が離せなくて電話をとることができないなどの事態が発生していた。そこで、救急科の金井尚之部長は、救急救命士を同センターに配置し、医師補助業務を担当するよう体制の整備を行った。

「救急救命士は学生時代から救急医療に携わる者として教育を受けている、プレホスピタルケアの専門家です。トリアージに慣れていて最適な判断が下せること、また、同職種である救急隊員とのコミュニケーションが円滑に進むことは、当センターにとって不可欠だと思いい、救急救命士の配置にこだわりました」(金井部長)



救急科の金井尚之部長

当初は雇用に消極的だった経営陣に、根気よくその有用性を説明することで採用。2012年6月に1人配置、日中の救急診療からスタートした。

配置の効果は、わずか数カ月で現れた。救急救命士が電話対応とトリアージを行うようになり、応需率が上昇。そのほか、医師や看護師をサポートすることで、それぞれの専門職が必要な業務に集中できる環境整備が進められた。実際に、これまで同センターには常に3人の看護師が配置されていたが、2人でも運営できるようにするなど、医療資源の効率化につながった。

取り組みを続けていくなかで、院内でも救急救命士の重要性が認知されていき、16年5月時点で3人に増員。日中だけでなく、休日



左から、救急救命士の井上夏実氏と廣岡大輝氏

帯も業務にあたるだけのマンパワーが確保されている。救急搬送受け入れ件数についても、12年度は救急科医師の退職による件数減少が見られたものの、その後は毎年右肩上がりとなっている。

「地域の救急隊や住民の方からも『救急を断らない病院』という印象が根づいてきました。当院の経営面と、地域への貢献の両方に役立つと思っていると思います」と金井部長は笑顔を見せる。

法規制のある救命士の医療行為は、今後はさらなる拡充をめざす

救急救命士の主な役割は前述のとおり、救急隊との対応とトリアー

ジだが、そのほかに医師補助・看護補助業務も担っている。医師補助では、▽当日対応医師の確認、▽消防庁との連絡端末の管理、▽搬送患者のバイタルサインや心電図の測定、▽医療処置の介助——を担当。看護補助では、▽看護記録の記載、▽輸液ルートの作成、▽採取された検体検査の提出、▽レントゲン・CT・MRI・内視鏡などの検査出し、▽入院患者の申し送り、▽医療行為に必要な物品管理——と、さまざまな形で同センターの効率的な運営をサポートしている。

「救急隊での勤務は、病院に届けるまでが仕事でした。しかし、その後どんな診療をするかというところまで知るとは、救急救命士としても大事な視点だと考えています」と、同センターの救急救命士の廣岡大輝氏は話す。また、同じく救急救命士の井上夏実氏は、女性の救急救命士という視点から次のように語る。

「現在、約2万4000人の救急救命士が救急隊員として働いていますが、そのうち女性は約700人にとどまっています。新しい活躍の場の一つとして女性の救命士

が増えるきっかけになればと考えています」

このような取り組みを通じて院内救急救命士の役割が明らかになっていく一方で、ジレンマもあると金井部長は指摘する。

「院内の救急救命士も救急救命士法に則っています。そして同法は、救急車内での心肺機能停止の患者のみに行う処置が多く、院内での救急医療行為には制限があります。一方で、咽頭鏡の使用や口腔内吸引、呼吸不全に対する酸素投与など、法の解釈によっては医師の指導・監視のもと実施が許容されて

いる医療行為もあるので、救急救命士の活躍できる範囲を増やしていきたいです」

今後は、日中と休日だけでなく、夜間帯にも救急救命士を配置して同センターを運営していくことを検討している。

「院内において救急救命士の必要性は十分に浸透しました。さまざまな経営判断があるため、すぐに増員できるものではありませんが、いずれは24時間365日、救急救命士が対応できるような体制をめざします」と金井部長は意気込みを見せる。

一般財団法人自警会 東京警察病院

1929年、警視庁職員の共同出資により千代田区に開設。2008年に中野区に移転した。“地域に密着した急性期病院”と“災害拠点病院としての体制構築”を掲げ、救急医療を中心に地域医療に貢献している。



住所：東京都中野区中野4丁目22-1
TEL：03-5343-5611
URL：<http://www.keisatsubyoin.or.jp>
病床数：415床（一般病棟7：1入院基本科）
診療科：総合診療内科、腎代謝科、血液内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、膠原病リウマチ科、神経科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、形成・美容外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科
職員数：820人（常勤医107人、16年5月）
救急搬送受け入れ件数：4669件（2015年度）